

日本のマクドナルドで、 家族のように大切な仲間に出会えました

4号線岩沼店(宮城県) クルー アハマト ウツラさん

あはまど うつら / 母国のバングラデシュから日本に來日して1年半。日本語学校に通いながら、4号線岩沼店で厨房を中心に活躍中。趣味は、世界史の勉強と小説の執筆。

来日後、初めての歓迎

バングラデシュから來日して数カ月。なかなか仕事が見つからず、アハマトさんは頭を抱えていた。当時は、日本語があまり話せなかったこともあり、面接すら断られることも一度や二度ではなかった。

そんな時に受けたのがマクドナルドの面接だった。「ルールとマナーをしっかりと守ってくれるのであれば、歓迎します。マクドナルドではきっといろいろな成長ができますよ」。日本に來て、初めて誰かに受け入れてもらえた気がした。面接をしてくれた社員の言葉で、來日してから募り募っていた不安が一気に和らいでいった。

働き始めた頃は、今よりも日本語が話せず、母国でのアルバイトの経験もなく、戸惑うことばかりだった。自分は迷惑をかけていると思い、辞めた方がいいんじゃないかと考えることもあった。それでも、「大丈夫だよ!」と笑顔でサポートしてくれる仲間たちに支えられて、アハマトさんは一つずつ仕事を覚えていった。

優しさは、国を越えて

厨房の仕事から始め、接客やバリスタ*の仕事にも挑戦をしているアハマトさん。今では、常連のお客様との会話にも花を咲かせている。「日本に來る前は、こんな風に仕事先のお客様とつながるなんて、想像もしていませんでした。すごくうれしいですし、仕事を通じて感謝の気持ちを伝えていきたいです」。客席に出ることで、アハマトさんの人とのつながりはどんどん広がっている。

また、最近では後輩のトレーニングも任されるようになった。しかし、仕事を教えることは想像していたよりも難しい。「1、2回教えただけでは、覚えてもらえないこともあります。それでも、笑顔でトレーニングを続けています。“感情的にならない”“相手の考えや意見を引き出す”ことは、マクドナルドのトレーニングの考え方です。何より私自身このお店で感情的な指示やトレーニングを受けたことは一度もないので」。自分が仲間からもらった思いやりを、今度は自分が後輩たちへ。

人に優しく。それが、4号線岩沼店で見つけたアハマトさんの信念であり、恩返しの方法でもある。

※思いを込めて本格コーヒーを一杯ずつ丁寧にお客様に提供する役職



誰のために成長するのか

マクドナルドで働き始めて約1年。アハマトさんは、まだまだシャイなところもあり、控えめだ。それでも、彼の長所は店舗の仲間たちに良い影響を与え続けている。「弱音や文句を言っているところを見たことがありません。いつもひたむきに、目標に向かって真っ直ぐ努力できるところがアハマトさんのすごいところです。一緒に働いていると、自然とみんな“自分も頑張らなきゃ”と思えるんですよ」。

トレーナー、そしてマネージャーを目指して、知識とスキルを身に付けているアハマトさんは、この店舗での目標を話してくれた。「4号線岩沼店の仲間は、本当に日本の家族のような存在です。その仲間と一緒にずっと愛される人気のお店にしていきたいんです」。自身の学びと成長を求めて海を渡り1年半。誰のために成長するのか——その理由を見つけたことで、アハマトさんは自らの可能性を広げ続けている。